

## 【数字を読み解く】プラス 18

～最近の仕入価格判断DI 製造業で原材料価格の上昇目立つ～

<2021/8/6 大分合同新聞掲載>

数字は、日本銀行大分支店が公表した6月の企業短期経済観測調査（短観）にある、最近の仕入価格判断DIだ。短観は3か月に1度、支店が発表している。

今回は5月27日～6月30日の間に、大分県内の163社（製造業70社、非製造業93社）から得られた、事業に対する見方や事業計画を集計したもの。仕入価格判断DIは各企業に、仕入価格が「上昇」「もちあい」「下落」の中から一つを選択してもらい、「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を引いて算出する。

6月短観における仕入価格判断DIは、製造業と非製造業を合わせた全産業でプラス18と前回（3月調査）から5ポイント上昇した。製造業はプラス17と前回から8ポイントの上昇、非製造業ではプラス18と前回から2ポイントの上昇となり、製造業の上昇幅が大きかったことが特徴だ。製造業からは「国際商品市況の上昇により、鋼材や原油、木材などの原材料価格が上昇している」との声が聞かれる。一方、同様の方法で算出する販売価格判断DIを見ると、全産業でプラス1と低い水準にとどまっており、仕入価格の上昇を販売価格に十分転嫁できていない様子が見える。

先行き9月の全産業の見通しは、仕入価格判断DIがプラス25と6月調査から7ポイントの上昇、販売価格判断DIがプラス6と同5ポイントの上昇を見込んでいる。今後も、原材料価格の上昇が企業収益に及ぼす影響について、注意深く見ていく必要がある。（日本銀行大分支店）